

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
きらとまなぶ		2025年 5月2日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		部屋自体がドアで仕切られ、狭く感じる部分があるので、取り組む活動、用途によって部屋を分けて使っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		私が勤務している間は適切であると感じる。らいふと事前に話し合っている。	人数によって狭さを感じることもある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8			完全なバリアフリーではない。入口に段差があるが、職員が配慮している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	2	衛生管理を日ごろから徹底し、快適に過ごせる環境を整えている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		子どもの状態に合わせて個室を利用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	4	朝礼時にらいふと合同で行って話し合う機会を作っている。	全員参加が少ないと感じる。朝礼時の際に話し合うので朝に来ている職員と話し合う機会が多い。午後からの職員にも意見を聞く場を増やしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	把握している職員から伝達して頂いている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2		外部評価を行っているのか把握できていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		スキルアップのために研修が定期的に行われている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		職場内外において研修の機会があり、学べている。個人に対しての支援の仕方などを都度教えていただいている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8			支援計画に携わっていない職員もいるので、分からない職員もいる。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	2	検討された結果をもとに子どもの支援の仕方を教えていただいている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2		全体的な職員に確認できていない部分があるので、今後確認していきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			直接携わっていない職員に伝達不足な時がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	2		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	2		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9			勤務上その日のうちに振り返りが難しい時には、後日共有するようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	1		記録をいかたり、話し合う職員は固定してしまうこともあるので、今後改善が必要。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児発管とよく理解した職員とで参加するときは行っている。難しい場合は事前に聞き取りをして児発管が参加する。	参画が出来ている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		どんなことでも関係機関に伝えることで、すぐに連携できる体制づくりを心がけていく。	出来ている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		移行に向けて、相談支援を筆頭にサービス担当者会議を開いたりしながら、情報共有を行っている。	相談員がいると間に入り会議を開いてくれたり、共有する場面が多くあるが、セルフプランの方はなかなか声をかけても難しい場面もある。今後検討が必要。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7			必要があれば、未就学お子様の様子などをお伝えするが、スーパーバイズまでは出ていない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	5		今後交流できる機会を作っていくことが必要だと思う。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	1	行っている。	引き続きこのまま行っていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		法人内で研修案内を出している。	今後とも法人内から保護者向けに研修案内を提供できたらと思っている。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		行っている。	支援プログラムはお手紙や公式LINEで説明している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		行っている。	引き続きこのまま行っていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		行っている。	引き続きこのまま行っていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		行っている。	どんな些細なことでもその場で解決せずに、一度持ち帰ってから話し合い、返事するようにしている。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		食事会と研修などで交流の場を設けている。	回数的に少なかったこと、昼間を保護者会として開放するなど今後検討してく。また兄弟同士の関りなども検討してく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		迅速に対応できるようにしている。	その場であったことなどは保護者様にすぐに伝えるようにしている。電話が繋がらない際には次の日には確実に伝えるように心がけている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		発信はしているが、投稿できていないこともある。	公式LINEの中で、行事や連絡なども今後活用していきたいと思っている。公式LINEに入っていない保護者様には電話や手紙でやりとりをする。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			今後とも気を付けながら取り組みたいと思っている。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		ローマ字打ちや字の大きさを変えたりしながら書面を作成し、お渡ししている。	もし、また分からないことがあれば押してくださいね。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	5		これから課題だと思う。今後、防災士の方からの研修などで地域の方も呼ぶことを検討中。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		年に2～3回の避難訓練と救命講習なども受けながら対応している。一回は実際に消防士に来ていただき、子ども達と一緒に訓練を行っている。	今後は防災士の方に来てもらい研修をしていくうえで、必要なこと、足りないことなどを学んでいく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年に2回感染症と災害のBCP訓練を行っている。机上訓練と実際に災害ダイヤルなどの練習も行っている。	まだ活動が始まったばかりで、流れになっていないので、今後形が出来るように考えている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	救命講習の際にアナフィラキシー症状が出た際に、エピペンの使い方を学んでいる。	色んなお子様がいますので、座薬の入れ方なども研修し、誰でも対応できる体制を作っていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		対応している。	引き続き気を付けていく
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			連絡が取れない際の災害ダイヤルの使い方など、レクチャーを受け取り組んでいる。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		何かあった際にはヒヤリハットを書いている。	話し合う機会が毎月ではないので、今後も話し合っていきたいと思う。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止研修を年に二回受けたり、外部研修を受けに行き、伝達したりしながら全体的に取り組んでいる。	全体に理解してもらえるようにこれからも取り組んでいく必要がある。
その他	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		保護者にも説明の上、個別支援計画書にも記載してる。	身体拘束の意味が分からない職員もいるので、都度研修を行う必要がある。
	その他	昨年度(令和6年度)、研修の機会が多く、幅広い分野のことを学ばせていただきました。職場のし質向上が子どもたち、保護者に貢献でき、事業所の信頼を得ることにつながるかと思います。今後ともご指導よろしくお願いしたいと思います。				